

概 況

概 況

1 畜種別取扱高

平成元年中の当市場における畜産物の総取扱高は、頭数58万8千頭、重量12万4千3百トン、金額1千418億円で、対前年度比は頭数では3%減、重量で6%の増、金額で6%の増となった。

畜種別にみると牛の取扱高は頭数12万9千頭、重量8万6千トン、金額1.245億円で、対前年比は頭数では2%減、重量では11%増、金額では8%の増であった。

豚の取扱高は頭数45万8千頭、重量3万9千トン、金額173億円で、対前年比は頭数で3%減、重量で3%減、金額では6%減であった。(表1参照)

2 産地別取扱高

牛では頭数・重量では千葉が第1位、金額では栃木が第1位であり、4位岩手と5位茨城のいれかわりがあったほかは、順位は昨年と比べあまり変化がない。県別では、茨城・群馬・静岡が10～20%減の一方で、和牛中心の山形が金額で4倍取扱高を伸ばした。輸入部分肉は昨年に続き重量で33%、金額で17%増加し、牛の全取扱高の40%前後を占めるに至った。

豚では千葉が頭数・重量・金額とも第1位で、昨年まで長く第1位だった茨城は2位となった。岩手・山形・秋田・栃木の伸びが10～50%にのぼる一方で、他の県はおおむね取扱高が減少した。(表1～2参照)

3 年間市況

牛の全国取引頭数は137万6千頭で対前年比4%減で、このうち東京市場の取引頭数は12万9千頭で2%減であった。年間平均価格は1,433円で63年に比べ30円安と2%低くなっている。これを月別にみると、1月は1,524円と前年同月比2円高で始まり、5月の前年比7%高をピークに、6月まで1,400円台、1～7%高を保ったが、7月からは輸入部分肉安値の影響で前年比1～9%安で推移し、12月には前年比111円安の1,525円で終わった。

また豚の全国取引頭数は2,142万3千頭で対前年比1%減で、このうち東京市場の取引頭数は45万8千頭で3%減であった。年間平均価格は442円で63年に比べ16円安と35%低くなった。これを月別にみると1月は383円と前年同月比11円安で始まり、4月の12%安を最低に前年比マイナス2～12%安で推移したが、8月の508円・前年比4%高をはじめとし、以降は5%高前後で推移し、12月には409円と前年比27円高、プラス7%で終わった。